

東浦町における認知症事業・ チームオレンジの取り組みについて

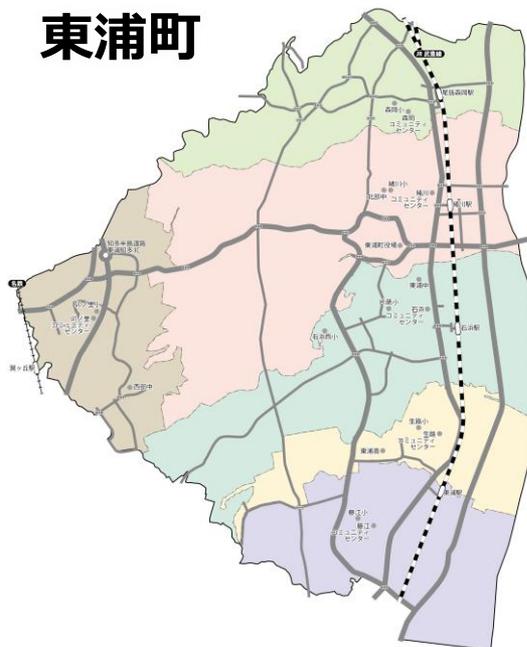
東浦町の基本情報

自治体概要

面積	31.14km ²
人口	50,191
世帯数	21,504世帯
高齢者人口	12,948人
高齢化率	25.8%
地区数 (=地区コミュニティ 推進協議会数)	6地区

令和5年9月1日現在

東浦町

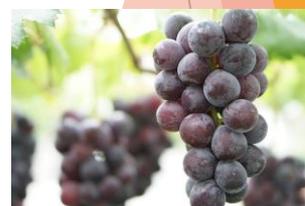


愛知県

東浦ってどんなまち？

- **子育てがしやすい！**…保育園の待機児童ゼロ！イオンモール東浦での買い物が便利！
- **土地が安い！**…隣接する市町と比較しても安い！トヨタ系企業のベッドタウン！
- **自然が豊か！**…自然環境学習の森など、里地里山がいっぱい！
- **アクセス良好！**…名古屋都心エリアまで電車で26分！中部国際空港まで車で23分！刈谷駅周辺まで車で11分！
(役場本庁舎から計測)

特産品は巨峰！



ちょうどいいまち



東浦町認知症施策について

令和2年6月「東浦町認知症にやさしいまち推進条例」を制定。

基本理念

- ・ 認知症の人とその家族等も住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる
- ・ 誰もが認知症を「じぶんごと」として考え、認知症の人やその家族の立場に立つ
- ・ 地域に関わる全員が、それぞれの役割を果たし、相互に連携する



条例に基づき、認知症施策を展開

● 認知症に関する理解の促進

認知症サポーター養成講座、認知症ケアパスの配布

● 認知症の人の視点に立った生活環境の整備

認知症カフェ、認知症高齢者賠償責任保険

● 災害時等の対応

GPS機器の初期費用全額助成、認知症高齢者等おでかけあんしん事業登録、行方不明高齢者搜索模擬訓練、個別避難計画

● 認知症予防等の促進

介護予防教室、健康マイレージ

● 医療及び介護の連携体制の整備等

認知症初期集中支援チーム、多職種連携講座



認知症にやさしいまちひがしうら おれんじ月間

R5

9月21日がアルツハイマーデー、9月がアルツハイマー月間であるため、東浦町でも9月に周知・啓発イベントを実施。

認サポ養成人数

累計12,356名(9月末)
2023年目標(12,137人)

100%達成!!

●認知症サポーター養成講座&啓発イベント

日時 令和5年9月5日(火)

あいち認知症パートナー企業として登録があり、町との公民連携協定を締結しているイオンモール東浦と共催。

【第1部 認知症サポーター養成講座】

認知症の基礎を学び理解を深める講座として、認知症地域支援推進員が講演を行った。

【第2部 啓発イベント】

認知症啓発パネルの展示、みまもりねっと登録体験、町内CMの認知症なんでも相談コーナー、認知症カフェ(チームオレンジ団体オレンジパラソル協力)等様々なイベントを実施。



認知症にやさしいまちひがしうら おれんじ月間

●認知症サポーターフォローアップ講座&現場体験

【第1部 認知症サポーターフォローアップ講座】

認知症サポーター養成講座で学んだことを土台に、
認知症の方との具体的なケアの方法を学ぶ講座

日時 令和5年9月15日(金)

講師 国立長寿医療研究センター 認知症看護認定看護師

テーマ 「認知症の人が在宅で暮らし続けるためには」

【第2部 現場体験】

町内の認知症関連施設4か所にて認知症の方との交流や
コミュニケーションをとることで、認知症の方に対する
ケアを学ぶ。



認知症にやさしいまちひがしうら おれんじ月間

常設イベント

- 内容 ●パネル展示
(役場、イオンモール東浦、於大公園)
- 書籍コーナーの設置
(図書館、イオンモール東浦、福祉センター)
- オレンジガーデニングプロジェクト
- 町内巡行うららバスとの
デコレーションプロジェクト
- 認知症関連絵本の読み聞かせ
日時 毎週水曜日 午前9時30分～
場所 東浦町福祉センター にじいろひろば



チームオレンジの活動状況について

幸福屋 ミンナdeカレーライス

<活動内容>

- ・認知症の方や支援者の方といった様々な方が、「社会参加」「役割」「生きがい」を作り出す場として、月に一度カレーライスを作り、地域の方に提供する。
- ・クッキングサポーター（調理担当）、ホールサポーター（配膳担当）、イートサポーター（カレーライスを食べる方）、PRサポーター（活動のPRをする方）と、誰もが役割を持ち、活動に関れる仕組みを設けている
- ・サポーター同士でカレーライスを食べながら、活動やメンバー間の情報交換などをし、交流も行っている。



クッキング
サポーター



イートサポーター



ホールサポーター

チームオレンジの活動状況について

幸福屋 ミンナdeカレーライス

<活動の背景・きっかけ>

- ・2023年3月 認知症カフェの参加者同士の繋がりを活かし、誰かの役に立つことができる機会を作れないかと考え、調理であれば誰もが関われるのではないかとカレーライスに着目した。
- ・認知症カフェ参加者の方（当事者とサポーター）、認知症地域支援推進員が関わっている高齢者、認知症介護者、引きこもりの方に声掛けし、2023年4月に第1回ミーティングを実施し、活動説明と認知症サポーター養成講座を行い、認知症に関する理解を深めた。
- ・2023年6月 第3回ミーティング（職員向けプレオープン実施）メンバーの負担もなく調理できることを確認し、試食の際に反省会を実施。認知症の方も意欲を持って参加し、家族からも感謝の言葉があった。
- ・2023年7月 ミンナdeカレーライスをオープン。20食を完売し、順調に出発



チームオレンジの活動状況について

幸福屋 ミンナdeカレーライス

<活動を進める上で重要視している点>

- ・活動へのハードルを下げるため、誰もが認知症サポーターになれる仕組みづくりを行った。
- ・それぞれの都合があることを理解し合い、お互いに支え合い、楽しんで活動することをオレンジコーディネーターが中心となって取り組みを進めている。
- ・夏休み等で小中学生といった多世代で交流する場を作ることで、サポーターのモチベーション向上を図る。
- ・認知症初期集中支援チームチーム員会議ケースの方に対する取り組みの紹介や、地域住民に対して材料提供の声掛け



チームオレンジの活動状況について

幸福屋 ミンナdeカレーライス

<活動を通じて生まれた成果・課題>

～成果～

- ・ 取り組みを始める前は自身の物忘れを気にしていたが、活動を通して表情もよくなり、ご家族から褒められるようになった。
- ・ カレーライスを食べにくる一般住民の方との関わりや、様々なサポーターの方との関わりが増え、やりがいを感じている。
- ・ カレーライスを食べに来た当時者が活動者として活動に加わるようになった。

～課題～

- ・ 認知症の方の参加継続
- ・ サポーターが増えた場合の活動回数の検討



チームオレンジの活動状況について

ひだまりカフェ

<活動内容>

日時 毎週水曜日午前9時30分～11時30分

場所 東浦町福祉センター1階 にじいろひろば

内容 ・脳トレやレクリエーションの補助、会話の仲介

- ・活動者が元福祉専門職という強みを活かし、認知症の方や介護者への声掛けや見守り、相談や声掛けをおこなっている。
- ・認知症地域支援推進員、オレンジコーディネーターとの情報共有、連携支援

<活動の背景・きっかけ>

- ・2016年 認知症総合事業開始に向けて、従来の東浦町生きがい活動支援通所事業「ひだまり」の一部として認知症カフェ「ひだまりカフェ」を開設
- ・認知症カフェへの移行に伴い、ボランティア活動者がカフェでの話し相手や、レクリエーションの補助、カフェでの配膳等の活動を行う



チームオレンジの活動状況について

ひだまりカフェ

<活動を進める上で重要視している点>

- ・相談等を受けた際は認知症地域支援推進員やオレンジコーディネーターと共有し、必要時は相談機関へ繋げている
- ・東浦町社会福祉協議会や東浦町高齢者相談支援センター（地域包括支援センター）のサテライト機能を担っている。
- ・支える側、支えられる側の立場の差なく、お互いに支え合う仲間として認知症カフェ参加者とつながるようにしている
- ・若年性認知症の方もカフェに参加しており、その方が楽しめる麻雀などを取り入れながら、参加しやすい雰囲気づくりを行っている。



チームオレンジの活動状況について

ひだまりカフェ

<活動を通じて生まれた効果・課題>

～効果～

- ・参加者や認知症当事者と同じ目線で接しているため、日常的な相談の受けやすさや、認知症当事者の変化に気づきやすい
- ・参加者と年齢が近いいため、「じぶんごと」として老いや認知症を受け止めやすく、共感的な声掛けや相手に配慮した支援が可能のため、心地良い居場所づくりに寄与している

～課題～

- ・ボランティアは活動を始めやすいが、活動の継続性を担保することが難しい。そのため活動者が固定しやすい。
- ・認知症カフェ参加者のみへの支援のため、自宅に引きこもっている方や集いの場には出てこない方との繋がりを持つことが難しい



チームオレンジの活動状況について

オレンジパラソル

<活動内容>

- ・ 認知症予防カフェの開催や認知症について分かりやすく理解するための劇を町内の小中学生や地域住民を対象に、認知症サポーター養成講座等イベントで実施。
- ・ 令和5年9月5日（火）イオンモール東浦での認知症啓発イベント内認知症カフェにて配膳、話し相手として協力。
- ・ 国立長寿医療研究センターが実施する、ポジティブディスカッションを行うことで認知症予防につなげる研究に、サポーターがファシリテーターとして参加し、協力している。



チームオレンジの活動状況について

オレンジパラソル

<活動の背景・きっかけ>

- ・ 2013年 認知症サポーター養成講座、認知症サポーターフォローアップ講座を受講した有志で結成。
- ・ 毎年認知症サポーター養成講座、認知症サポーターフォローアップ講座を受講した方が参加している。

<活動を進める上で重要視している点>

- ・ 活動の幅を増やすため、オレンジコーディネーターが様々なイベントでの活動をコーディネート
- ・ 認知症サポーター養成講座、認知症フォローアップ講座、アルツハイマー月間内イベント等で活動をPR



チームオレンジの活動状況について

オレンジパラソル

<活動を通じて生まれた効果・課題>

～効果～

- ・ 難しい病気の症状への対応を具体的な劇にすることで、子どもや高齢者に分かりやすく伝えることができています。
- ・ 動画とは違い、現場で直接行うことで相手に伝わりやすい
- ・ 活動はメンバーのやりがいにもなっており、その姿勢が周りにも伝わり、認知症理解を広げる活動への温かい気持ち広がっている。
- ・ 同じ地域に住む住民として同じ目線で認知症について語ることで、より地域の理解者、共感を得ることができている。

～課題～

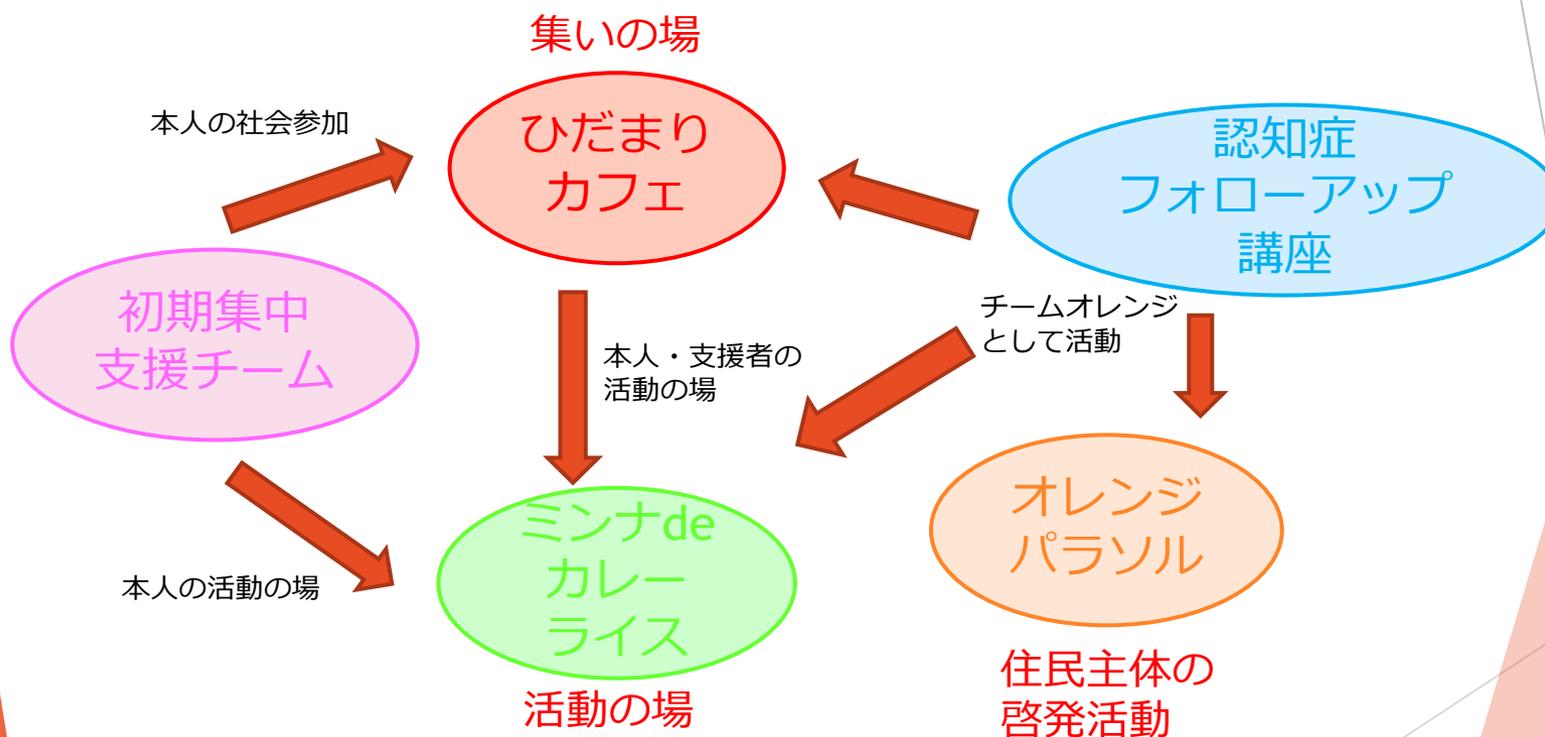
- ・ 認知症への正しい理解を持った上で劇などの活動を行っており、参加へのハードルが高く活動参加者を獲得しにくい
- ・ 理解者や活動者を増やすための周知の場が少ない

チームオレンジの活動状況について

オレンジコーディネーターとしての取り組み

<方針・コンセプト>

「チームごとの役割」に重点をおき、それぞれのチームが継続して活動をするための仕組みづくり



チームオレンジの活動状況について

オレンジコーディネーターとしての取り組み

<コーディネーターの主な活動>

- ・ 認知症フォローアップ講座受講者がオレンジサポーターとして活動に取り組めるよう支援
- ・ チームオレンジ団体の活動する機会の提供

<活動中での工夫>

- ・ 認サポ受講者と別機会（サロン、他講座等）で会うため、認知症関連講座、イベント参加への積極的な声掛け
- ・ 活動での本人の何気ない発言や想いをキャッチし、行政担当者や推進員に情報を共有

<活動の成果、今後の展望・課題>

- ・ 本人が主体的に活動することができているため、やりがいを感じ、認知症の人としてのポジティブな面が見えている。
- ・ 活動継続のため、新たな当事者の方が参加しやすいような仕組みづくりや、既参加者の参加が難しくなった際の次段階支援へのつなぎ。

認知症にやさしいまち

ひがしうら



東浦町役場 0562-83-3111

東浦町社会福祉協議会 0562-84-3741